

年2月に同校生徒34名が本校を訪問し、全校生徒と交流を行いました。

同校の訪問が決定すると、屏東女子の生徒一人ひとりをエスコートするため、本校生徒の代表が「おもてなし係」として様々な準備に当たりました。また、英語の授業では、生徒同士が英語を使って自国の文化を紹介するプレゼンテーションを行うという特別な単元を作成しました。単元の内容としては、本番での自己紹介やプレゼン等はもちろんですが、インターネット通話を活用した事前交流など、英語を実際に使う場面を充実させた素晴らしいものとなりました。

こうした経験もあって、今年6月には、台湾の家齊（チャーチー）高級中學が急遽本校を訪問することとなった際も、本校の生徒はスムーズに他国の生徒と交流できたと思います。

### ○地域との連携

「閑谷學」では、地元企業とのコラボチーム（現3年次生）が、化粧品メーカーの桃谷順天館と協働してハンドクリーム「三色小町（みついろこまち）」を開発しました。和気町のシンボルである藤の花の香り、和気町の新特産物リンゴ、米どころ岡山を象徴する米のエキスの3種類を配合しているのが特徴です。

この商品は、町から開発費用の助成をいただいたり、商工会から特産品の認定を受けたりしており、「キャリア教育連携推進表彰最優秀賞」の受賞を記念する商品開発になったと思います。1本800円で、本校事務室、和気商工会の他、「ピュアリティまきび」で購入いただけます。

また、今年度も町から3名の支援職員を配置していただいています。地域おこし協力隊の宮部信之先生、中村哲也先生と、



屏東女子の生徒と授業後の記念撮影（2月）

地域おこし企業人の古賀敢人先生です。先生方には、閑谷學、英語、広報活動、小中高連携等の支援に当たっていただいています。特に、今年度は、「和気高版公営塾」と銘打ち、英語力向上やトップ層支援の取組を充実していただいています。

### ○タブレット端末iPadの導入など、ICT環境の充実

県立高校初の試みとして、平成30年度入学生から、生徒一人1台ずつiPadを配付して、授業等で活用しています。教職員用iPadの一部は、同窓生の方から寄付をいただきました。



iPadの設定中

また、「アップルTV」を4台導入し、全普通教室に設置した短焦点型プロジェクタと教職員用iPadを無線接続する環境を整えました。

1年次生は、数学の時間や基礎学力養成のための学校設定科目「クロストレーニング」の時間に、AI（人工知能）を搭載した算数・数学の学び直しアプリ「Qubena（キュベナ）」を使い、生徒それぞれの実力に応じた学習を進めています。また、「閑谷學」や各教科の授業では、インターネットを活用した情報収集、国語や英語辞書アプリの活用、生徒それぞれが自分の日々の学習活動をデジタル化して記録するなど、様々な活用を進めています。

それ以外にも、追手門学院大学が開発した基礎学力養成アプリ「MANABOSS（マナボス）」を、1年次生はもちろん、2・3年次生も、自分のスマホや学校のPCなどを使って学習を行っています。

ICT環境充実の成果としては、前述のように本校教育活動の充実が第一ですが、その他としては、iPadの付属アプリ「iMovie（アイムービー）」を使い、本校の様々な教育活動を紹介する動画を作成し、広報活動を行っています。

例えば、女子バレー部や陸上競技部、バドミントン部などの部活動紹介、生徒や教職員が、自分の夢や学校で取り組んでいることなどを中学生に語りかける「わけしずの人々」シリーズなどの動画を、動画共有サイト「YouTube（ユーチューブ）」にアップしています。

ぜひ一度「YouTube」のトップ画面から「わけしず」で検索してみてください。または、本校のホームページから動画をご覧いただくことも可能となっています。



東京のアンテナショップでの販売の様子は、県のツイッターでも紹介されました